



2度目の東京オリンピック

第18回卒業生 渡部次郎

「お、も、て、な、し」のパフォーマンスに代表される各誘致委員の渾身のプレゼンテーションの結果、「Tokyo」の発表を聞いた歓喜の瞬間が今でも印象に残っています。2020年、東京オリンピック、パラリンピックの開催が決定した瞬間のことです。

その時、そういえば我々が坂野中学校の3年生の時東京オリンピックがあったよなあ、我々の世代は2度目の東京オリンピックという貴重な体験ができるんだなあという思いでいっぱいになりました。官民一体となって大成功を収めてほしいと念願しています。また、このオリンピックを契機にして、停滞気味の現在の日本に当時の勢いを取り戻してほしいと考えています。

さて、第1回の東京オリンピックと私の中学時代の思い出についてお話をさせていただきます。「スポーツ大好き人間」の私にとって、幼い頃からオリンピックというのは最高のイベントであり、まして自国開催ということでワクワクしながら開催を待ちわびたものでした。特に坂中生が地元を走った聖火リレーが鮮やかに思い出されます。

また中学時代の思い出と強く重なる競技が2つあります。それは体操競技と重量挙げ競技です。この2つの競技が当時の仲間達や教室、体育館等を思い起こさせてくれるからです。

まず体操競技ですが、前日見た技を教室とか体育館で披露しあうのです。脚が全然伸びていない「脚前拳」、膝が曲がったままの「Y字バランス」、人の助けか壁の助けに必要な「倒立」…それぞれが顔を真っ赤にして、大真面目にやるものだから皆大ウケで盛り上がったものでした。

次に、重量挙げ競技ではあの金メダリストの三宅選手と、同級で4位に入った福田選手の対照的な試技が話題になりました。三宅選手はバーベルを持つ位置を手を使って測るというような緻密な試技でしたが、一方福田選手はそんなことはお構いなしに気合もろとも一気に挙げるというやりかたでした。この2人の違いを竹ぼうき等の小道具を使って、事細かに物まねをして楽しんだことをよく覚えています。このように私にとって坂野中学校と東京オリンピックは切り離せない思い出なのです。

このたび、我が母校の坂野中学校が閉校になることが決まりました。卒業生の1人として寂しい思いでいっぱいです。しかし、それ以上に新中学校への期待も大きいものがあります。

新中学校の充実、発展こそが坂野中学校の伝統を引き継ぐ道に繋がるからです。我が主宰する「渡部塾」のモットーは「目標はあくまで高く」です。新中学校には、高い目標を志し、世界に羽ばたくような人材を育ててくれることを願っています。